

新 生

風ほのか 愛しきひとよ シクラメン 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十四年三月 十日印刷
平成二十四年三月 二十日発行

新生第六十四巻 第一号

新 生

平成二十四年三月 十日印刷
平成二十四年三月 二十日発行

第六十四巻 第一号

東北新生園の概況

| | |
|---------|-------------------------|
| 所在地 | 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地 |
| 土地面積 | 351,291㎡ |
| 建物延面積 | 25,280㎡ |
| 開園 | 昭和14年10月27日 |
| 医療法承認病床 | 266床 |
| 標榜診療科 | 内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科 |
| 現在入所者数 | 男51名 女60名 計111名 |
| 職員定員数 | 153名 (平成23年4月1日現在) |
| 園長 | 医学博士 横田 隆 |

東北新生園交通案内図



宮城県ハンセン協会招待 仙台光のページェント見学バス旅行

平成23年12月14日



宮城県ハンセン協会のご厚意で
素敵なディナーショーと食事を
用意していただき、楽しいひと
時を過ごしました



園内日誌

平成二十三年 十月〜十二月

【謝寄贈図書欄】

平成二十三年十月〜十二月 (敬称略)

《十月》

十一〜十二日 秋田県里帰り旅行
十七〜十八日 山形県里帰り旅行
二十一日 秋季バス旅行①(仙台・定義山方面)
二十四日 大泉逸郎歌謡ショー
二十五日 秋季バス旅行②(仙台・定義山方面)

《十一月》

六日 第九回少年少女野球大会
八〜九日 第十回パネル展・屋台まつり
十日 宮城県議会議員一般選挙不在者投票
十四日 一関・釣山公園視察(会長・施設他)
十五日 新潟県慰問・新潟県保健福祉部疾病感染
対策課(二名)、新潟県藤楓協会(三名)
宮城県慰問・宮城県保健福祉部疾病感染対策班
十六日 秋田県羽後町健康推進委員役員研修会
十八日 作業者旅行(山石手・花巻方面)
二十九日 能代地区結核予防婦人会連合会研修会

《十二月》

八日 仙台医療福祉専門学校園内施設見学(会長講話)
十四日 SENDAI光のページェント見学バス旅行

| | | | | |
|------|----|-----|----|--------|
| 多磨 | 多磨 | 東京都 | 多磨 | 全生園 |
| 菊池 | 野熊 | 本県 | 菊池 | 恵楓園 |
| 青松 | 香川 | 県 | 大島 | 青松園 |
| 愛生 | 岡山 | 県 | 長島 | 愛生園 |
| 点字愛生 | 岡山 | 県 | 長島 | 愛生園盲人会 |
| 楓 | 岡山 | 県 | 邑久 | 光明園 |
| 甲田 | の裾 | 青森 | 松丘 | 保養園 |
| 高野 | 原 | 群馬 | 栗生 | 楽泉園 |
| 始良 | 野 | 鹿兒島 | 星塚 | 敬愛園 |
| 真宗 | 宗 | 京都府 | 真宗 | 大谷派宗務所 |

平成24年3月10日 印刷
平成24年3月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)
編 部 楓会文化部
印 刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十四巻第一号……………目次

表紙…「シクラメン」……………桃生 小富士

新年にあたって……………楓会会長…久保 瑛二…(2)

当園の災害対策について―東日本大震災時に行ったことと今後の対策―
……………園 長…横 田 隆…(4)

インドでのハンセン病抑圧活動(デリー)
……………W H Oハンセン病制圧特別大使…笹 川 陽平…(16)

随筆「昔の母ちゃんリズムあり」……………今 野 きよし…(21)

|| 新 生 文 芸 ||

詩……………選 者…佐々木 洋一…(24)

短歌……………選 者…山 田 雅道…(25)

俳句……………選 者…栗 田 桃晃…(27)

川柳……………選 者…石 田 隆子…(29)

随筆「仙台―関閤車中にて」……………看 護 師…今 野 きよし…(31)

新生園の思い出……………看 護 師…佐々木 貞子…(36)

心り返って……………看 護 師…白 鳥 けい子…(37)

散歩道……………看 護 師…高 橋 けい子…(38)

お世話になりました……………看 護 師…高 橋 けい子…(38)

園内日誌・謝寄贈図書……………看 護 長…及 川 洋子…(39)

新年にあたって

楓会会長 久保瑛二

新年明けましておめでとうございます。

皆様それぞれに良いお年を迎えられたこととお喜びを申し上げます。

昨年の二〇一一年三月十一日東北地方太平洋沖地震が発生し、国内では最大規模の地震に、当園でもその影響による余震が長期的に継続し、被害は軽微だったものの今後の災害対策について深刻な再考を迫るものであった。

「千年に一度」とも言われる自然の恐ろしさを身震いとともに生涯忘れることは無いであらう東日本大震災であった。

さて、こうした中で災害時の医療機能について現実の課題として取り組んでいくことの急務を感じています。特にこうした現実の課題とも言うべき、また将来の対策としての模倣眺めではない対応を、更なる将来構想の中においても考え直す必要を痛切に感じます。

今、私どもの会員の平均年齢は八十三歳にもなり、超高齢化と不自由度の亢進、寝たき

り老人や成人病などの合併症の急増という多くの身近な問題を抱えて会を預かる者として、先行きの不安と焦燥感に馳せられる日々であります。

おそらく各自治会においても深刻な状況になりつつあること思う時、誠に憂慮すべき事態になったものと、我々を巡るところの環境の変化に悩みを深くしております。

今後、我々のハンセン病療養所の推移を考察する時、こうした事態に対応するためにも、今おかれている医療体系を根本から考え直す必要性を痛切に感じます。

私たちにとつての医療充実、高齢者対策、職員増員は密接な関わりがあり、増員なくして真の高齢者対策の充実が望めるだろうかと言わざるを得ません。今一度、療養所の過去の歴史的な背景を行政関係各位の方々に再認識を心から切望いたします。

これらのことは、特に新しい構想でもありませんが、今我々が置かれている、こうした現実的且つ環境の中で、ないがしろにできない問題であらうかと思えます。

本年こそは、医療機関として機能が十分に発揮できる基幹整備の整った運営がなされるよう、年頭にあたり祈念する次第であります。

東日本大震災被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

当園の災害対策について

—東日本大震災時に行ったことと今後の対策—

園長 横田 隆

入所者の皆様、「新生」読者の皆様、平成二十四年が明け、三ヶ月が経ちましたが、いかがお過ごしでしょうか。

昨年は三月十一日の大震災により、その後は停電対策、食料対策、燃料対策などに集中し、夏は節電をお願いしてきたところで、そんなこんなで年が明けてしまった感があります。今回は当園で行った災害への対策についてお話ししてみたいと思っております。実際に災害に際して施設が行ったことについての記載部分には——を、今後の対策については——を引きましましたので、職員にも読んでいただきたいと思っております。

【四年前の岩手・宮城内陸地震の時の対策】

四年前にも大きな地震があり、栗原市では震度6強を観測しました。土曜日の朝八時過ぎに地震が起きましたが、その日、仙台の自宅にいた私はテレビで栗原市の震度に驚いて、

すぐに新生園に向かいました。高速道路は閉鎖されていたため、一般道を通りましたが、栗原市に入ると、停電のために信号は軒並み消えており、交差点では慎重に安全を確かめて走行しました。現に職員の一人は、交差点で後続の乗用車に追突された事故を経験しております。停電時は細心の注意をして、職場に向かう必要があります。

園に着くと、すでに副総看護師長が来ておりましたので、一緒に園内を回り、被害を確かめました。ちょうど施設管理の職員も来てくれたので、建物で被害のあった場所の報告を受けました。建物の被害は軽微で、入所者二名が転倒したことにより、軽傷を受けていたため、治療しました。

治療棟の歯科外来に入ると、キャビネットが転倒しており、ガラスは割れ、中の物が散乱しておりました。土曜日であったため、入所者がいなかったのは大変幸いなことでした。もし、診察が行われていたら…と思うとゾッとしました。中央材料室のキャビネットも2つ倒れており、中の物が散乱し、ガラス片が飛び散っております。職員が働いていたら大けがをしたかもしれません。

この時の経験により、園内のキャビネット等と天井との間に支え棒をして倒れないようにしましたので、去年三月の大震災（震度6強）ではキャビネット等は一つも



キャビネット等と天井の間に耐震の為の支え棒

倒れることはありませんでしたが、四月七日の大きな余震（震度6弱）では、中央材料室のキャビネットの支え棒が外れて倒れてしまったため、床にしっかりと固定をしました。

岩手・宮城内陸地震では、園内の損害は軽度で、停電はすぐに復旧し、物流の途絶えもガソリン問題もありませんでしたので、皆様もあまり記憶にないかもしれませんが、地震直後には幹部職員二名が園内を見回り、その後に対策を立てておりました。この時は停電となりましたが、すぐに復旧し、物流の途絶えもありませんでした。

【東日本大震災後の対策】

震災後、当園で作成した「大地震対策マニュアル」には震度5強以上の地震が発生した場合の対策が書いてありますが、これを今、読み直してみると、震災時の職員の苦勞がよみがえってきます。マニュアルは、大地震によって引き起こされるであろう停電、物資の不足などについての対策や発注先リスト、備蓄リストが詳細に書いてあります。これらについて、説明を加えながら、解説してみたいと思います。



キャビネットを床に固定

①停電対策

停電は五日間続きましたが、自家発電の燃料である軽油を集めなければなりません。全自家発電を一時間発電するのに、軽油が130リットルも必要でした。電話は不通で、業者とは連絡がつかないため、業者の所まで車で軽油を買い出しに行かなければなりませんでしたが、震災後四日間に施設で集めた軽油は全部で7400リットル、そのうち約1割の780リットルは職員および出入り業者から提供されました。当初、停電はいつまで続くかという見通しもなく、軽油は一滴でも欲しかったため、廊下ですれちがう職員一人ひとりに声をかけて、協力をお願いしたのです。一人で400リットルも提供してくれた職員もいて、大変ありがたいと思えました。

今後の対策としては、軽油は、備蓄場所を普段から確保して備蓄し、合計では2000リットルを常備する、これは管理棟等用の自家発電を一日三時間稼働したとして、他の自家発電を含めて約三日間持ちこたえることが出来る量です。

大型発電機に頼るのは何かトラブルがあれば、園内の発電が出来なくなるので、小型発電機を14台購入しました（16台整備）。これは管理棟では、インターネットやメール、電話交換機などのためのものや、



小型発電機

病棟の照明用、喀痰吸引用のもの。各センターと治療棟に小型発電機を設置します。震災時は、大型発電機を停止させると、数時間で電話交換機の充電が切れ、園内の固定電話やPHS（園内携帯電話）が通じなくなりました。そのために、管理棟等用の自家発電機を一時間120リットルの軽油を使って稼働させなければならぬという、極めて無駄なことをしなければならなかったのですが、今後は電話交換機用の小型発電機を稼働させれば、ずいぶんと軽油の節約になると思います。

②ガソリン不足について

今回の震災で最も困ったことが、ガソリン不足でした。燃料は海岸沿いの製油所が津波により被害を受け、タンクローリー車も流されたことにより起こったものでした。加えて道路が寸断されたり、高速道路が閉鎖されたため、物流の途絶も原因だったと思われます。巷のガソリンスタンドでは10リットル、20リットルという少量のガソリンしか補給されない状況で、スタンド前は車が長蛇の列をなしていました。職員も準夜勤務を終えて、ガソリンスタンドに並び、実際にガソリンを入れられたのが次の日の夕方、しかも満タンにはしてもらえなかった：という状況でした。

施設としても、八方に手を尽くしてガソリンを要請しましたが、ガソリン入手は極めて困難でした。職員の車に入れるガソリンもなく、多くの人が職場に寝泊まりしてくれました。このような状況で、何とか施設でも出来ないか：と考えていたところ、医療関係者には優先的にガソリンを入れてくれるガソリンスタンドがあるとの情報あり、当園事務長が飛んでいき、何とか当園の職員にもガソリンを入れてくれるようお願いしました。しか

し、驚いたことに、当園は登米市の医療機関として登録されていないとのこと、何と云うことでしょうか、これには事務長共々、落胆の極みでしたが、事務長が何とか交渉して一日三名まではガソリンを入れてくれることになりました。今回の震災では、一事が万事、救急患者を受け入れる病院が最優先でしたので、世間はその程度のものだという認識で対応していかなければならないと痛感した次第です。

軽油はガソリンに比べれば、まだ余裕がありましたので、職員の送り迎えを軽油で動くバスで出来ないか：職員のために何とか出来ないか：との提案が事務職員より出て来ました。事務室に入っていくと、事務職員が大きな地図に赤点を付けています。何かと見ると、全職員の自宅を地図の上に書き込んでいたのです。どこに迎えに行けば効率よく職員の送迎が出来るかを事務長を中心に検討していたのです。しかし、新生園の職員の住宅は登米・栗原地区に広範囲に広がっていて、どこにバスをつければよいのか、ある所をバス停に指定しても、職員がどこまで来てくれるか、三交代の送迎はどうするか：などを詰めて考えると、実現は困難でした。

施設にもガソリンは自衛隊から提供されたものがありましたので、職員何人かで連れ立って通勤する車には20リットルなどの一定のガソリンを提供しようか：ということも事務長から発案されましたが、これも20台で400リットルもかかり、安定してガソリンが手に入らない以上、実現は出来ませんでした。

施設としてはガソリン不足に対してはほとんど対処出来ませんでした。今後の対策は考えておかないといけません。ガソリンは消防法の規制対象となつていて、無闇に多くの量を貯蔵することが出来ませんが、地上タンクを常に満タンにしておいて、ガソリン

車は日頃から満タンを心がける、さらに今までは倉庫になっていた所を整備して、ガソリンを貯蔵できるようにして、規制の範囲内で出来るだけ備蓄しておく。どこかに独自のルートでもあり、有事の際にガソリンが手に入れば：とは思いますが、今回体験してみてもそれは実現不能と思ったものでした。県内どこにもガソリンがない、という状況にも陥り、県でも市でも集めるのがかなり困難だったようで、このような事態では今後どうするか：国全体としての検討課題となるでしょう。要は有事の際に、国立療養所に優先的にガソリンや軽油などの燃料を供給してもらえような方策を考える必要があります。

重油についても軽油やガソリンと基本的には同じ対策で、二つのタンクを常時、出来るだけ満タンにしておくということです。重油はボイラーで使用しますので、風呂に関係してありません。

③水と食料

震災直後より停電と同時に断水となりましたが、当園は井戸水を濾過して飲料水としていたため、ほとんど影響はありませんでした。井戸水をくみ上げ、濾過するときに電気が必要なため、自家発電機に夜間も定期的な軽油を補給する必要はありましたが、飲料水や生活水に困ることなく、トイレの使用も問題ないのは非常に幸運でした。近隣の病院は水対策もかなり困ったようで、その日の水確保というのが重要な課題となっていたとのことでした。近所の住人で水を希望する人もおり、多少はお役に立てたかと思っております。

以前、私は井戸をそれほど評価しておらず、十五年ほど前に青森の町立病院に赴任していた当時、その病院が井戸水を使っており、鉄分が多く、当直の時など、風呂を入れると

湯船のお湯が真っ赤になり、検査の機械は不具合が出るし、どうして水道水を使わないのかと医局会で事務長に質したことがありました。予算的に水道水を使用するとかなりの額になり：との説明で、他の井戸を掘らせているので少しお待ち下さいという事務方からの返事に、私はついつい怒ってしまい、いらぬ一言二言を言ってしまった覚えがあります。これなどは若気の至りもいいところで、浅学から来た愚かな発言で、今でも後悔しております。今回の事では井戸により新生園は救われたと言ってもよいと考えており、私は「井戸信奉者」にすっかり転向いたしました。

万一、地下水にトラブルがあったり、くみ上げや濾過の装置が故障したことも考えないといけません。飲料水として、給食内に500mlペットボトルを400本以上、その他入所者五日分の飲料水を確保しております。

食料についても物流は途絶え、非常食の使用や献立などの変更を余儀なくされました。当園は食料は主に仙台より仕入れており（当園より60キロ南）、電話連絡もままならない状況で、取引していない近くの業者から直接仕入れたり、職員から生野菜などを提供してもらったりして、何とか乗



内部ラジエーター等が破損して、使用不可となった井戸の自家発電機

り切ることが出来ました。米は隣の岩手県の納入業者に会いに二日間通い、納入予定日に納入出来ることを確認しました。米と水さえあれば、何とかなるという思いがありました。今後の対策ですが、食料の納入業者は安価で提供できるところなので、遠方の大きな業者となるため、なかなか近所の業者のみをお願いするというのは困難ですが、有事の際に当園に食料を入れてくれる業者を決めておくのは必要で、常日頃、連絡を取っておくのが望ましいことでしょう。震災の時は電話は不通になりますので、こちらから車で出向いて行けるくらいの距離の所にそのような食糧補給所を選定しておく必要があります。現在、関係部署と検討しているところです。また、非常食として今後も備えをしておくことは当然で、今回のことを考えると、六日間は全く物流が止まっても対処出来るようにする必要があります。

④ 薬剤

薬剤に関しては震災直後より対処が非常に迅速であり、必要物品はこちらから製薬会社に直接取りに行く、近隣の病院から必要物品を借用するなどの確な対処で乗り切りましたが、処方の日数を制限して出来るだけ処方薬の一回量を減らすことはありましたが、物流が途絶えたという印象がなかったのは、薬剤科の対処が優れていたためと考えております。今後の対策は、震災などの時に優先して当園に薬を提供してくれる会社をあらかじめ決めておく、ということ、現在、薬剤科により話が進められているところです。

⑤ 衛星電話

今回の震災では電話がすべて不通になりましたので、災害時にも使用できる衛星電話を一台購入しました。本省をはじめ、多くの関係者が当園に電話をしても通じず、本当にご心配をおかけしました。今後はそのようなことがないため、災害後の被災状況などの報告は衛星電話で行いたいと考えております。

東北大学病院からの情報では、災害時に携帯電話は通じませんでした。PHSは不通となることなく、大学病院医師の安全確認はPHSにて行われたとのこと。PHSの有効さが際だったとのことでした。しかし、PHSは加入者が少なく、通信制限をかけたことから、このことなので、今後は有効なのはわかりません。

⑥ 乾電池

停電時の懐中電灯やラジオなどに必須でしたが、当園ではその時点では納入されていなかったため、備蓄が少なく、盲人会より乾電池を提供していただき、危機を乗り越えることが出来ました。今後はよく使われる単一と単三を中心に十分な量を備えておくことにしております。また、20時間充電できる卓上スタンドを配備し、懐中電灯や照明の代わりに使用できるようにしました。



衛星電話

⑦ストーブ

震災の起こった日は三月でも寒い日で、夕方より雪が降りました。停電のために電気でも動く石油ファンヒーターは役に立たず、電池で着火する反射式ストーブが力を発揮しました。ヤカンを上に乗せれば、お湯も沸くし…という事で便利でした。反射式ストーブを13台購入しました(25台整備)。

灯油用とガソリン用の携行缶を購入し、必要に応じて使用することにしております。

【おわりに】

以上、震災直後から各部署が行ったことと、その後立てた対策について列記しました。地震後、停電が五日間続きましたが、その間、約20名の職員が泊まり込んで、園の運営に協力してくれました。これは以前の「新生」にも書きましたが、真夜中の自家発電機の給油を、職種を越えて行ってくれました。庶務や会計、施設管理、福祉職員、薬剤師などが、専門でもなく、やったこともない発電機の給油を、順番を決めて夜中に行ってくれました。私は震災後十日間、園に泊まり込んで各部署の活動をつぶさに見てきました。その記憶を元に、今回の原稿を書いております。燃料供給不足から自家発電を停止するなど予想外のことが起こったので、それに伴う様々な諸問題への対応が大変でした。その中で職員は本当によくやってくれたと思っております。しかし、中には、施設は何をしていたの、どう？と思っている人がいるかもしれません。災害対策本部の福祉室では、テレビが一日中

ついていました。これは震災の被害状況や余震情報、高速道路や電車の回復状況、物流や補給情報などにより今後の対応を検討するのに必要でした。外から見ると、仕事もしないでテレビを見て…と思っただけかもしれません。鳴らない電話の電話番号をして、ただただ椅子に座っていたように見えたかもしれませんが、しかし、実際には刻々と変わる災害状況の情報を確認しながら、不測の状況に対応しており、三時間毎に一日七回夜中も自家発電への燃料補給をするなど、泊まり込んでくれた多くの職員は夜中寝ていない状況で、昼間の短時間に体を休めるのは必要なことでした。

そのような疑問を持つている職員にこそ、この文を読んでもらいたいだきたい、そして理解して、事実に向かった前向きな提言を考えてもらいたいと希望する次第です。また、この文が他の施設にとって、多少なりとも参考になれば幸いです。



インドでのハンセン病制圧活動（デリー）

WHOハンセン病制圧特別大使 笹川陽平

昨秋にインドの首都デリーを訪問しました。ハンセン病対策を統括する各国の責任者が世界中から集まる国際会議に出席するのが主な目的で、ハンセン病の回復者やその家族が集まって生活するコロニーの訪問や政府要人との面談も行いました。

二〇一〇年末現在、世界のハンセン病患者数は十九万二千人、一年間に発見される新規患者数は二二万八千人です。一九八五年には患者数が五〇〇万人以上を超えていました

が、治療薬MDT（多剤併用療法）が開発され、日本財団の支援などにより無料で配布されるようになってから患者数は大幅に減少しました。人口一万人あたりの有病率一人未満というWHO（世界保健機関）が定める公衆衛生上の制圧についても、一九八五年は一二二カ国が未制圧でしたが、現在ではブラジル一カ国を残すのみとなっています。患者数が多い国は今回の訪問国インドが最大で年間一二万九千人、続いてブラジルで三万五千人、三番目にインドネシアで一万七千人が新規患者と

して発見されています。まだまだ多くの人々がこの病気にかかり、発見が遅れ障害が残ってしまう人もいるだけでなく、病気が治ったあとも社会に根強く残る偏見や差別に苦しんでおり、医療面と社会面の両面における闘いが必要なのです。

デリーに到着した翌日の午前中、WHOが主催するハンセン病グローバル・プログラム・マネジャー会議に出席しました。アジア、アフリカ、中南米など五〇カ国近くから責任者が一堂に会し、世界のハンセン病対策を決める重要な会議です。WHOは現五カ年戦略のなかで、新規患者中のグレードIIの障害（目に見える障害）数を二〇一五年までに二〇一〇年比で三五パーセント減らすという目標を掲げています。会議の冒頭で、WHO東南アジア地域事務局長のサムリー博士がこの目標を再度表明し、ステイグマ・差別の問題を克服していくための取り組みについても力を入



WHO主催の会議で基調講演をする筆者

れていくと発表されました。また今回は、WHOが長年開催してきたこの会議において、初めてステイグマと差別に関するセッションが設けられ、さらに二日間ある日程の一番初めに行われました。WHOがいかにかにハンセン病の差別の問題を重要視し始めたかが伺える出来事であり、各国の政府保健省高官や国際機関職員たちが回復者の生の声を聞くよい機会となったと思います。先に述べた五カ年戦略でも社会面での取り組みが包含されており、私がよくたとえで使うモーターサイクルというところの前輪と後輪がそろって動き始めていることが感じられました。

私からは基調講演で、各国のハンセン病責任者に対してこれまで制圧活動を成功に導いてきてくれたことへの感謝を伝えると同時に、今後も医療面、社会面の両側面において課題が残されているなか、戦略的、創造的な取り組みが求められており、また、昨年WHO

医師会に賛同を得る予定であり、それを機に医療施設での患者に対する偏見を撤廃する足がかりとしたいという考えを述べました。三つ目の回復者のエンパワメントとして、インドでのハンセン病回復者団体ナショナル・フォーラムによる当事者間のネットワーキ化の動きと、笹川インド・ハンセン病財団による小規模融資や奨学金の取り組みを紹介しました。これらの三つのアプローチが組み合わせられ「NGOと政府、国際機関、そして回復者自身が共に力を合わせることで始めて、差別をなくし尊厳を回復していくことができると信じている」と訴えました。

会議はその後、ステイグマ・差別の問題と対策、世界のハンセン病の状況、障害への対策などをテーマに、各国の代表や専門家、あるいは回復者自身から発表があり、積極的な意見交換がなされました。二〇一五年までの五カ年戦略のもと、各国が積極的に対策を進めることを期待しています。

WHOが発行した「ハンセン病サービスにおける回復者参加強化ガイドライン」を各国に適用し実施していただきたい旨も述べました。社会面においては、人々の間でハンセン病に対する誤解や迷信が根強く残るなか、ステイグマや差別をなくすための戦略として、国際機関と政府機関へのアプローチ、一般社会の認知の向上、当事者のエンパワメントという三つの柱に基づく戦略を紹介しました。一つ目は、二〇一〇年十二月、国連総会で「ハンセン病患者・回復者とその家族への差別撤廃決議」およびその原則とガイドラインが全会一致で可決されたことを触媒として、各国政府に差別的法律の改正や生活の改善を訴えるという取り組みです。二つ目の具体的な取り組みは、二〇〇六年から行っている差別撤廃の声明であるグローバル・アピールで、これまでノーベル賞受賞者をはじめとして、NGOや宗教、企業や大学の指導者に賛同を得て発表してきました。二〇一二年は世界の各国

午前中の会議の後、午後は、デリーで二八のコロニーが点在するタヒプール地域のアナンドグラム・コロニーを訪問しました。この



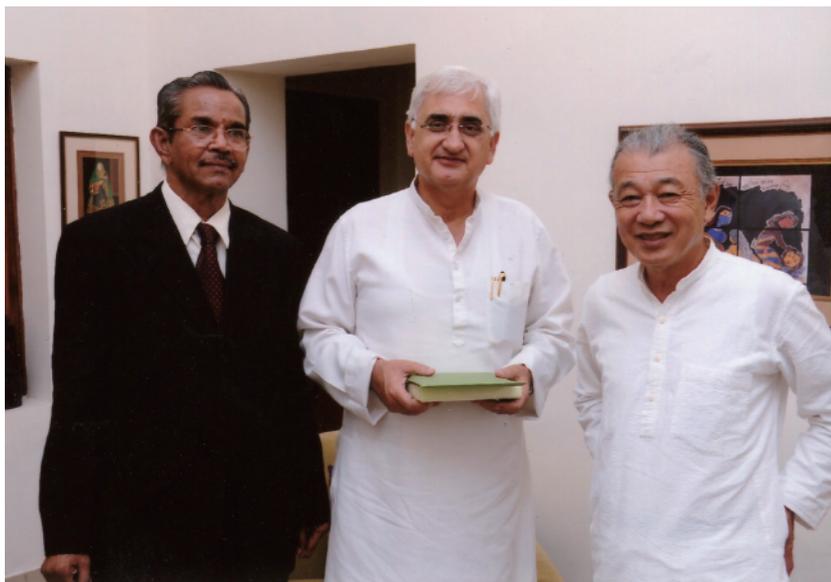
アナンドグラム・コロニーを訪れる

コロナーでは笹川インド・ハンセン病財団の融資で養鶏事業を行っており、一千匹ものヒヨコが元氣よく走りまわっており、成長すれば鶏肉として1kgあたり一六〇ルピー（約三〇〇円）で販売されるそうで、その成果と結果の報告を楽しみにしています。また、このコロナー以外からもタヒプール地域の一五のコロナーの代表が集まる集会も行いました。コロナーの代表からは、住民のほとんどが物乞いをして生活をしていること、家が古くて雨漏りすること、プロジェクトを行うための支援がほしいことなどが切々と訴えられ、支援策を検討することとなりました。

また、回復者組織ナショナル・フォーラム代表のゴパール博士の同席のもとインド連邦政府のクルシッド法務大臣と面談しました。私からは先述のハンセン病差別撤廃の国連決議や、インド国内に残る差別的法律について話をしました。大臣からは「国連決議を尊重

する。差別的条文が残っているこれらの法律はいずれも古いまま残っており、変えなければならぬ条文は改正する。法律の分野においてできることをフルサポートする」という積極的発言をいただきました。

今回のデリー訪問では、モーターサイクルの前輪である医療面と後輪である社会面の両輪の必要性がWHOはじめ関係者に少しずつ理解されてきていることを確認できました。一方で、社会面での具体的な取り組みはインドはじめ各国でまだまだ遅れているのが現状です。長い歴史を通して人々のDNAの中に深く刻みこまれてきた差別の心を取り去るのは決して簡単なことではありません。しかし、世界で最も古い歴史を持つこの病氣自体をなくすだけでなく、ハンセン病に伴う差別をなくし、回復者の方々が物乞いをせずに尊厳をもって生きられるよう、これからも回復者たちと共に歩んでまいりたいと思います。



(左から) ゴパール回復者組織代表、ワルシッド法務大臣、筆者

随筆

昔の母ちゃんリズムあり

今 野 きよし

私が十二、三の子供のころ私の家から三百メートルばかりの川下に二つ年上の岩間哲郎さんという人が居た。

その哲郎さん一人息子で頭が良くて、学校の成績は一番、体操も上手で、私達はとて莫及ばない上級生であった。

その哲郎さんが遊び友達を訪ねて、夜遅くまで家に帰らなかつたのであろう。

秋の夕暮れになると哲郎さんのお母さんが哲郎さんと呼ぶ声が毎晩のように聞えた。あれから七十年も前の事がついこの間のように耳に残っている。

「てつろうー。てつろうー。」十回位繰り返して呼ぶのであった。それでも帰らないと「てつろうー早く帰って来てばやー」と三回位呼んで、後は呼ぶ声が聞こえなかった。

今は難聴となり、そばから話しかけられてもなかなか聞こえないが、子供のころはよく聞こえた気がする。

昔の母ちゃんはリズムがあり、人情味があり、一つの風格があった気がする。すぎ去った時代が良く見えてなつかしい。リズムカルな母ちゃんの子供を呼ぶ声、叱る声もどこか寂しくてどうにもならない。やるせない声が耳に残っている。

哲郎さんの従兄弟で、遊び相手でもあった三郎さんの話は七、八年後の事になる。

私の部落は長い、一つの沢に三十七軒の家があった。公会堂は無く人の集まりがあると、どなたかの家に集まって話し合いをした。

そこで有志の方々が相談して、公会堂を建てることになった。建材は村役場の山から払

下げて貰い、杉の伐採は経験のある方が五、六人居たので、自分たちで木を切る事になった。

私も前の年に七、八ヶ月山仕事をした事があったので、私にも声がかかり、伐採の仕事に出て働いた。ベテランの方は杉の皮をむいたりして一ヶ月位で伐採も終わり、山で木材を乾かし、青年団の人達は木を担いで山から運び出し、女の人達は杉の枝の片づけをした。

公会堂を建てるのは部落の中に大工さんが居り、その方が棟梁をして采配をふるい、壁屋さんも居り、経験のある方々の本当の手作りの公会堂ができた。

屋根葺きは木端葺きであったので余所の町の人を頼んだ以外はほとんど部落の人達の手で建てられた。

いよいよリズムカルな母ちゃんの話に移るといふのも、公会堂が出来上がって、部落総出での落成祝いの日が来た。

待ちに待った落成祝いというので酒好きの

人はこの上ない楽しい日を迎えることが出来た。その中に哲郎さんの従兄弟の三郎さんも居た。三郎さんも酔いが回って、ある人とト

ラブルになり、つかみ合いの喧嘩になり大騒ぎになった。

哲郎さんの父ちゃんも居たが、喧嘩の場に行かず大声を出して怒鳴っていた。力が強く、かなわないことが分かっていたのでどうにもならなかった。

喧嘩をしている息子の三郎さんをなだめようとして母ちゃんが出て行ったところ、つかみ合いの手をはなして、今度は自分の母親の手に噛みついて離さないの、あんまり強くはかまわなかったとは思われたが、いつまでも手を噛んで離さなかったの、「三郎ー痛いってばやー、三郎ー痛いってばやー、三郎ー痛いってばやー、三郎ー痛いってばやー。」とゆっくり息子に話しかけていた。ところが、誰かが三郎さんの鼻をつかんだので離れたというのである。

あの母ちゃんの声が今でも耳に残っている。

「三郎ー痛いってばやー」と何ともやりきれない声であった。

リズムカルと言うよりはあまりにも失礼な話である。六十年も前のことを思い出され、不思議な気がしてならない。

それから一年ばかり後に三郎さんは隣町に聳にいった。あの時の事を思うと何か噂があると気にしていたが、何の噂もなく実家に帰っては来なかった。良く仕える躰養子として子供達の父親として、隣り近所には働き者として皆さんと仲良くして、恵まれた人生を送っていたであろうと想像して喜んでいる。

詩

佐々木 洋 一選

◇ 入 選 ◇

《雁》

今野 きよし

雁が行く
青く澄みたる
真上の空を
鳴き交し
とんで行く
雁の鳴き声
何言葉

隊列いつも整えて
鉤や竿形に

目ざして行くは

大崎耕土

仙台平野

希望膨む

目的地

前途洋々

雁の列

雁の世界に

垣根がなくて

制空権も

国境も

外して呉れた

自由の世界

自然の恵み

満喫し

短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

一日田圃に
伸び伸びと
その数二千三千羽
真上の空を
伊豆沼目ざし
帰り行く
沼面に夢を
育くみに

【選評】

「雁」

雁の鳴き声は、平和という言葉かもしれない。この作品からは、自由に伸び伸びとした精神を感じます。

伊豆沼に行くと、人類だけでなく鳥類も生きていくことを実感します。

東北線見下ろす丘に秋に来て憩いし友
らよ残るは我のみ

佐藤 つや子

【選評】

秋の一日の思い出が今もありありと浮ぶ。しかし、その日の友らは自分以外は皆亡くなってしまった。長命な作者の寂しさが読み取れる良い歌である。

今野 きよし
真青なる空に一点ぽつとりとふくらみ
ながら気球近づく

【選 評】 青空に浮ぶ大きな気球。遠く
から近づいてくる様子がいきい
きと表現されている。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子
一病息災なる言葉をかみしめて八十九
度目の新年迎う

歴史とはいくさいくさの積み重ね歴史
読本テープに聞きつつ

昭和八年三陸津波は三年生地震の記憶
ここにはじまる



◇ 入 選 ◇

今野 きよし
流れ行く不気味な雲や冬の空

【選 評】 雲の流れを見て居ると震災の
瓦礫の山が崩れ、波音がすぐそ
こに、不気味な影が押し寄せて
来る。さっと消えてつて冬の青
空が動く平穏な日々雲の流れ
を願う作者の心底が見える句。

善し悪しを解する力言う力このまま一
生持ちつづけたし

衣食住保障されつつ幾十年とし経るご
とに有り難さのわく

今野 きよし
補聴器をかけて面会待つ間しばしの刻
も長しと思う

かすれ声ひくく唄いて民謡を丁度良い
とて拍手を貰う

バス酔いにならないようにと気を使い
あれやこれやと声かけ呉れる

偏見をなくして欲しいと願いつつ心閉
ざして無口になりぬ

日の登る空の茜の色増してじっと眺め
てまぶしき覚ゆ

千代田 秀 夫

復興の歌声高く大晦日

【選 評】 この句は復興の歌声と直接震
災に結びつけないけれど、高々
で震災の状況が深く重く半端で
ないものの思いが残る。除夜の
鐘の響きが重苦しくてならな
い。

小野寺 静 男

被災浜雪の原野の広さかな

【選 評】 東日本大震災、被災した浜辺
が続く。原因は太平洋プレート
の沈みと言われている。瓦礫の
山が右に左に未だに残ってい
る。原野の広さに雪が降り積も
る淋しさが実感でしょうか。

◇ 佳 作 ◇

齋藤 照雄

木の实降る療舎の屋根を音たてて
食欲の秋の最中のダイエツト
彼岸花咲きたる丘を軋む義肢
小春日の中なる義肢の軋む音

今野 きよし

仲間減り一人静かに日向ぼこ
名案がないかと願ひ日向ぼこ
雲に乗りどこか行きたい年の暮れ
足跡のほんのり残る冬田かな

千代田 秀夫

香水の香りに話題そらしけり
しみひとつ無き歳ならん初暦
懐手頭で分ける縄暖簾
襟立てて世間の風に逆らえり



◇ 入 選 ◇

千代田 秀夫

復興に国会議員が邪魔になり

桜山 南仙

小銭までリズムめいてる年の暮れ

桃生 小富士

ふる里の海よ荒れるな初日の出

小野寺 静男

欠礼の並ぶ紙面や十二月
それぞれに賀詞交歓の犬と人
しんしんとガレキの山に雪が降る



【選評】

千年に一度の未曾有の災害に遭遇して、
ようやく新年を迎えました。特別な一年の
中での作品は、思いのたけに溢れた秀句が
多く読み応えのあるものとなりました。

特選の三席は、復興にもどかしい思いが
見えます。党利党略に走り、後手後手にま
わっている施策への揶揄と読みました。

二席の「小銭のリズム」は、見付けのあ
る作品です。年の瀬の気ぜわしさを小銭の
動きから感じとる、感覚の鋭い作者に脱帽
です。

一席の「初日の出」は、故郷を案じる気
持ちに溢れて心打たれました。何もかも
浚っていった大津波ですが、ふる里への思
い、家族の絆は流されません。再生、復興
がなるまで被災地にふる里に心寄せていき
たいものです。

◇ 佳 作 ◇

桜山南仙

なんとなく土の底からお正月
捨てられた言葉ぴりからちりかごで
すれ違う声が聞きたく杖を出す

斎藤照雄

五七五書くも曲指にペンしばり
どんぶくを着て木枯らしに抵抗す
凧あがる糸を信じてぐんぐんと
うさ晴らす酒が悲しみつのらせる

小野寺 静 男

復旧はしたが薪風呂続いでる
被災地に超極太の絆あり
なんとなく背筋伸ばして読む聖書

桃 生 小富士

一本のペンから紡ぐわが人生
この一年災害列島悲鳴上げ
シクラメン冬から春にタッチする

千代田 秀 夫

人生のとんぼ返りや古曆
聴診器じつと動かぬ白い指
幸薄く生きて男の影法師

今 野 きよし

プレッシャー掛けたつもりが掛けられる
腹の中写る鏡がないものか
難聴の五分遅れて理解する
猛吹雪誰に向かって吹くのやら

随 筆

仙台—一関間車中にて

今 野 きよし

A 石越のおばあさん

B 一関のおばあさん

C 一関のおばあさんの息子 敏

D 敏の妻

A あら、荷物いっぱい背負って何処まで
行つて来ましたか？

B 仙台の孫の所に行つて来ました。

A そうですか。私も仙台に行つて来ました。

B そうですか、それでは同じ所に行った来た
たのですね。

A そうですね、一緒でしたね。
B そうでしたね。

A こうして電車の旅も良いものですね。

B 初めての方でもこうしてお話出来ますもの
のね。

A 私ね、電車に乗るとすぐ眠くなるんです。
石越に着いたら教えて下さいね。

B はあ、それはようございます。
教えてあげますから。

A ああ、良かった。安心して眠られるから、
これが私の楽しみの一つなんです。

B そうですか、楽しみがあるのは良いこと
ですね。

A ああ、今日は良かった。あつという間に
小牛田まで来てしまった。

A B そうですか、それは良かったですね。
 A 今日話相手になって下さる方と御一緒になるのはしばらく振りでね。
 B そうですね。
 A B そうですよ。なんぼ電車に大勢の人が居てもそんなに気安く話出来ませんものね。
 B それはそうですね。
 A B 私はそんなに気安くできませんものね。
 B それはそうですね、そんなに馴れ馴れしく出来ませんものね。
 A あれ、話夢中になって石越で降りるの過ぎてしまった。
 B どうしたんですか？
 A あれ？ここ花泉でないですか。
 B B それがどうしたんですか？
 A 石越駅で降りるはずだったの。話に夢中になってしまって……
 A B 私はもう少しと聞いていたものですから。それも言いますね【小牛田】を「ここだ」とか……

A B そうでしょう。私もそう聞きましたもの。
 A B そんなに急ぐ事もないですから。一関まで行って戻ることになります。
 B それは良いことですね。
 A B そうだね。それもこれも皆さんとお話が出来た事の方が良かったです。
 B 私の家は一関駅から五分位ですから寄っていらつしゃい。宮城県も良いでしょうけども、岩手県も良いところですよ。
 A B 初めにお会いしてお邪魔するのは何だか悪いですね。
 B そんなことありませんよ。何も遠慮しないで寄って下さい。話半端な気がしますから。
 A B いや、そんなことはありません。色々とお話聞かせて頂きましたから。
 B | 電車から降りる |
 B 一関といっても街の中ではないものです

A から。
 A いやいや、そんなことございませんよ。私も百姓農家ですから。
 B B そうですか、それは良かったです。
 A B 何かわけがあるのですか。
 B 別に深いわけは無いですがね。
 A B はあ、そうですね。何かあるのかと思つて、いやいやそんな事ありませんよ。
 B A 町の人と農家では話合いませんからね。
 A B それはそうですね。
 B A さつき五分位と言いましたね。
 A B それがどうかしましたか。
 A B 五分位と聞いたものですから、なかなか着きませんね。
 B A まあ五分と言つても、もつとかかる事もあります。
 A B 仙台時間ですから。
 A B まあ、私の家は2キロ位あります。そうでしょう、岩手県の五分は随分長い

A B なあと思いました。
 B A B そうですか、岩手県は広いですからね。
 A B B そうですか、その辺は良く聞かないとね。戸惑うこともあります。
 B A B なんと言いました。
 B A B うん、独り言です。
 B A B そうですか、独り言に返事する人居ないですからね。
 B A B そうですね。
 B A B もう少しですからね、坂道きつくなりま
 A B すよ。
 A B A B そうですね、息切れしてきました。
 A B A B あそこが私の家です。
 B A B 一番前の家ですか？
 A B B その後の家です。
 A B A B これは帰り心配になってきた。
 B A B 大丈夫ですよ。遅くなった時は孫に送ら
 A B B せますから。
 A B A B お孫さん、いくつになりますか？
 B A B 上の孫は二十六になります。

A 女の子のお孫さんと言いましたね。
B はい、そうです。女の子だけでも車も運転するし、トラクターやトラックも運転します。

A それほたいしたものですね。
B それ程でもございませんけど。

A これはえらいところに来てしまった。
B なんといいました。ああ独り言でしたね。

A 私の方こそ遅くまですみませんね。
B お名前聞かなかったですね。

A 私の方こそ遅くなりまして、名前言わなかつたですね。田口と申します。
B 田口さんですか。

A お宅の方では田口と申される方は多いですか？
B 二軒だけです。

A やつと我が家に着きました。やれやれ只今、田口さんとおっしゃる方と一緒に、初めにお目にかかります。お邪魔します。

C さあ、どうぞどうぞ。休んで下さい。
A むさ苦しいところですからけれども。

A おばあさんの言葉に甘えてここまで来てしまいました。

C そんなこと言わないで、どうぞお上がり下さい。

A ありがとうございます。
B どうぞ一緒に夕御飯召しあがって下さい。

A こんなにご馳走になっているもの、もう帰ります。

B これから大事な話があります。
A そのお話とはどんな話ですか？

B 実はね、家には女の子ばかり三人孫が居ります。どこかいい所ないでしょうか？
A 今の時代にお嫁さんに来て下さる方なら喜んで迎えると思いますよ。

B お宅のお孫さんいくつになりますか？
A まだ二十二です。お宅のお孫さん二十六でしたね。
B いやいや年上の嫁は金のわらじを履いて

も探せと言うでしょう？

A そう言うこと、聞いたことありますけど。そうでしょう。お宅のお孫さんにぴった

B りですよ。
A 私には何の事だか分かりませんよ。

B さつき孫に送らせると言いましたのも、お宅の孫さんは二十九になつて嫁を探している話を聞いたからなんですよ。

A 私が電車に乗っている時、私の事知っていたのですか？
B そうですよ、言葉をかけて下さった時、ああ良かったと思いました。

A 随分私の家の事詳しいですね。

B そうですよ、お宅の近所の佐々木盛さんの連合い、私の姪ですよ。

A それにしても、私は何も知らないのに。そうですか。私はね、何度も佐々木さんのお宅に行つております。

B へい、これは恐れ入りました。
A では孫ではなく、私の息子に送らせませ

から。

A そうでしょうね。女の人では不安ですものね。大事なお孫さんをね。

B 敏、早く田口さんを石越のお宅まで送つて行つて。

A はい、車を準備してお送りしますからね。ありがとうございます。何だか申し訳ないすね。何から何までお世話になつて。

C 私の家は、母で持っているようなものです。

A 今の時代に珍しいですね。あなたの奥さんの働きですよ。奥さんが良いからですよ。

C ですから一家円満なんです。娘の事もご家族の方にお話しになつて下さい。

A はい、わかりました。皆さん、さようなら。(一同さようなら)

B ああ、行つてしまつたな。

新生園の思い出

看護師 佐々木 貞子

この度三月三十一日付をもちまして、定年退職を迎えることになりました。在職中は、入所者の皆様に色々な場面で声を掛けて下さり、助けて頂きました。思い出もいっぱいです。全生園での白内障手術の送迎では、約八時間もかかり、入所者の方も私達もくたくたでした。それでも前に新生園にいた入所者の方が出迎えて下さり、教えて頂き本当に心強かったです。

園内では、運動会や園内お年玉八ガキがあり、産休明けで出勤すると当たり賞品が休憩室に山のようにありました。びっくりするやら、嬉しいやら…

無事三十二年もの長い間勤務することがで

きましたのも、入居者の皆様、職員の皆様のおかげだと思っております。
これからはゆっくりゆっくり亀さんのように進んでいきたいと思えます。ありがとうございます。
ございました。



ふり返って

介護長 白鳥 けい子

私が新生園に採用になったのは、昭和四十五年で十九歳でした。看護助手として五人採用して頂き、山鳩寮、泉寮、高砂寮、栗駒寮とそれぞれ配置され、私は泉寮でした。

泉寮は木造で、雨戸のある建物でした。早出勤務になると雨戸開けから始まって、お茶配りでした。雨戸が重く、中々戸袋に入らず、足で蹴って収めた時もありました。雪が降った時は戸の間から雪が縁側に入っていたものでした。

勤務して間もなく、園の大運動会があり、大勢の入所者の方が参加していました。私は十歳頃に一度「桜通り」に花見に来た事がありました。桜の花でトンネルになって、とて

もきれいでした。園内は見た事がなかったの
で、昼休み時間に一緒に採用になった四人で
園内散歩をしました。何処の庭を見ても手入
れがされて、とてもきれいでした。キリスト
教会から見た眺めは最高でした。こんなにき
れいな所があつたんだと毎日の様に昼休み時
間は園内散歩をしました。あの頃は入所者の
方は若く、五百人以上の方が居たと思います。
一般寮の方の畑に行つて見れば、草一本無く
立派な大根や白菜、ネギその他にも色々な野
菜がありました。今の車庫で野菜の品評会が
あり、そこにはただ驚くばかりの立派な野菜
が並んでいたものでした。一般寮の方が不自
由者棟の友達に野菜を持って来て、私達が補
食で味噌汁や煮物を先輩達に教えて頂きなが
ら、一回の補食で四く五人分入った味噌汁を
五く六鍋も煮た事もありました。味が薄いと
叱られた事やだんだん覚えるから大丈夫だと
励まされた事、色々な事を教えて頂き、懐か
しく思い出されます。

私は娘が四人いて、結婚が早かったため孫が十二人います。二人の娘夫婦と孫六人の十二人で暮らしています。毎日にぎやかです。毎年幼稚園と小学校入学がいて大変だなと思う時もありますが、孫の顔を見れば、かわいくて、かわいくてなりませぬ。いつまでも一緒に暮らしたいと思っています。

もうすぐ退職ですが、娘から託児所勤務の辞令をもらってしまいました。一日もゆっくり休ませてもらえない様です。

最後になりましたが、沢山の思い出を頂き、本当に有り難うございました。入所者の皆様やスタッフの皆様を支えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。今年は寒さが厳しいです。お身体を大切にお過ごし下さい。

長い間、本当にお世話になりました。
ありがとうございます。

栗駒山が見える、昔から変わらない私の通勤の道を散歩する入居者の方々の姿が少なくなつて、とても淋しくなりました。
みなさん、お元気でいて下さいね。



散歩道

介護長 高橋 高子

私の通勤の道は、入居者の方々の散歩道でもあります。

ある時、散歩途中Sさんと話す機会が出来ました。

そののち何年かして、私が園に勤務することになりました。散歩している姿は知っていても、他は何も知らないSさんの寮に勤務となり、入浴介助、「まさかSさんの背中を流すことになるとは、夢にも思わなかったね。」という会話で大笑いしながら、しばらくは入浴介助にあたったものでした。

Sさんに会うと、元気に散歩している姿と、入浴介助の最初のあの会話が、いつも想い出されます。

お世話になりました

介護長 及川 洋子

昭和五十一年八月、看護助手として採用して頂き、病棟勤務から始まりました。

出勤初日、入口で待っていた入所者のKさんに「今日だけ誰に聞かれても、結婚しているかどうか言っではいけないよ。」と声を掛けられた記憶があります。口止めされた三歳と二歳の我が子達は、現在それぞれが当時の私同様二人の子持ちとなりました。新人の私に未婚か既婚かを賭けた勝負結果は、聞かずに済みでしたが、二十代の私を見て未婚を選び、残念な結果を得た方は、果たして何人おられたのかなと思ったりします。

当時は、作業返還が行われている最中で、仕事は先輩や病棟寮長をされている入所者の

Wさんに教わりました。入室者は四十人以上の日もあり、空きベッドが無く、配膳室では食器を洗う音が長い時間続いています。五人のチームでしたが、先輩の皆さんは五ヶ月で配置換えになり、三年勤務した私は、病棟だけで看護助手の皆さんと働く事が出来ました。

その後、私も不自由者棟に配置換えになりましたが、病室とは違い、入所者の方々は活気に溢れ、実年齢より遥かに若く見えました。花壇に自慢の花を咲かせ、丹精込めた盆栽の数々を並べてあり、縁側からは、それらと風に吹かれている洗濯物が妙にマツチして見えました。体調を崩して入室されている方がいる時は、枯らさぬ様にと水やりに気を配ったものです。補食の多さにも驚きました。朝食用にと二十個以上の卵焼きを一度に作る先輩のプロ級の技、次々と仕上げる煮物の数に関心し、材料となる野菜は、入所者の皆さんの作品と知り、どうしたらこの様な立派な物を

作れるのかと不思議に思ったものです。

無我夢中で過ぎた三十五年間ですが、たくさん思い出と共に、何と大勢の方との悲しい永遠の別れがあつたことでしょう。

どんな時も温かく見守って接して頂いた入所者の皆様、いつも助けて頂いた職員の皆様に御迷惑をかけたり、失礼なことがあつた事を、この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。そして、皆様と共に過ごし、自分に向いていると思つた職に就き、定年退職を迎える幸せに心より感謝申し上げます。

東日本大震災が起きてから、一年になろうとしています。未だに繰り返される余震に不安な毎日ですが、お身体を大切にされお過ごし下さい。

長い間お世話になり、ありがとうございますました。